特別開発研究プロジェクト

もやい直し～つながろう！水俣とフクシマ～

－3.11 後の「忘却」に抗う社会科授業の創造－

東京学芸大学附属国際中等教育学校
古　家　正　暢

はじめに　（なぜ　私が 3.11 にこだわるのか）

1995 年の阪神・淡路大震災、1997 年のナホトカ号重油流失事故の際に、ボランティア活動に参加しなかったことを長い間、私は後悔してきた。当時は「小さな幼子がいるのだからしかたない」と自分に言い訳をしていた。それだけに、未曾有ともいうべき東日本大震災の際には、二人の子どもも大きくなっている今、何をおいてもボランティア活動に参加しなければならないと思った。なぜなら当時の学年目標は「自分に何ができるか　What can I do ?」であったのだから…。

震災後 1 ヶ月半が経過したゴールデンウィークに元同僚とボランティア活動に出かけた。初めに訪れたのは宮城県東松島市野蒜海岸であった。さまざまなものが打ち上げられた砂浜で、まず線香を手向け合掌した。そこに手をつないで無言で海を見つめる父娘が現れた。妻を…母を…亡くした父娘ではないかと推測した。言葉が出なかった。無力な自分を感じた。だから、その後、一生懸命に泥出しのボランティア活動を行った。しかし、私は社会科教師である。泥出しボランティアで満足していてはならない。

妻を…母を…亡くしたと思われる親子
東松島市：野蒜海岸（2011/04/30）
－ちょっとピンボケしているのは、撮影自体が大変失礼な行為であると考え、遠くから自分の記憶に留め置くために撮影したため－

3.11 後の「忘却」に抗う社会科を…ポスト 3.11 の「持続可能な社会」を考える授業を創造しなければならないと感じた。このような思いを胸に私は、東日本大震災以降、「3.11 後の『忘却』に抗う社会科授業の創造」をテーマとした授業づくりに腐心している。これまでに下記の授業を展開してきた。

(1)　「津波てんでんこ」こそが持続可能な社会を築くのか
(2)　ディベート「地方自治体は震災瓦礫の広域処理を受け入れるべきである。是か非か」
(3)　被災地の漁師に「六次産業」まで求めることに正義はあるのか
(4)　ディスカッション「震災遺構」を残し、後世に伝えるべきである。是か非か」
(5)　「フクシマ」から「福島」をとりもどす

Ⅰ　水俣とフクシマとをつなぐ授業をめざして

1.　「のさり」と「宿命としての危険」

2014 年秋、水俣事件を過去の出来事として封印することに抗う若手教員二人と、熊本県水俣市茂道を訪ね、水俣病受難者である杉本雄（73 歳）さんにインタビューを試みた。杉

本さんは「家族全員が水俣病になり、なんで自分たち家族だけが…と何かに当たりたい気もちになったこともあった。」「最初は奇病として扱われ、謂れのないいじめも受けた。」「漁師にとって最も大切な網を切られたこともあった。」と淡々と語られた。しかし、このように辛い思いを語った後「いじめた人も本当は良くないことをしていると思っていたはずなんです。そこまで追い込まれた人間の心理が一番かわいそうなんです。いじめていた人たちも助からないといけないんです。人間はみな平等であり、かけがえのない『いのち』をいただいているのですから…。自分さえよければいいという考えを捨てて、人間がいかに善く生きていくかを考えなければいけません」と幼い子どもに諭すように静かな口調で語られた。

水俣病受難者：杉本雄さんと筆者
水俣市茂道（2014/10/18）

あまりの達観ぶりに俄かに信じることができず幾つも質問を投げかけた。すると『のさり』だからとの答えが返ってきた。『のさり』とは水俣地方の漁師言葉で「天からの授かりもの」いった意味で、大漁を喜ぶとき「今日はのさったねえ」などと使うとのことであった。水俣病を理由に社会的差別を受けた杉本さんは、義父から「水俣病も『のさり』だと思え」と諭され、さまざまな差別から耐え抜く術を身につけたということであった。

この話を聞いて思い出したのが、ナチスの強制収容所を体験したフランクルの著書であった。『それでも人生にイエスと言う』[i]。まさに杉本さんは「それでも人生に『のさり』と言う」という印象であった。帰京後、杉本雄・栄子さん夫婦を描いた『のさり－水俣漁師、杉本家の記憶より－』[ii]を読んで、『のさり』の心境理解に努めようとしたのだが、私には到底不可能であった。雄さんの亡くなった妻である栄子さんは水俣の語り部として「お金があるのものさり、ないのものさり、病気ものさり、のさりとは自分が求めずして与えられたもの」と、ことあるごとに『のさり』という哲学にも似た心境を語っていたとのことである。

そんな『のさり』の境地について思い悩む日々を送っているときに、ウルリヒ・ベックの『危険社会』[iii]を改めて読み返してみた。そこには『宿命としての危険』という項目があった。「危険が今までとは異なった形で強制的に割り当てられることとなったのであり、いわば一種の『文明社会の宿命としての危険状況』が生じている。…今日、発達した文明の中には、ある種の危険が有する宿命ともいえる状況がある。われわれは、その宿命に捕えられて、あらゆる手をつくしても、それから逃れることはできない。」と。

ベックの考え方の一部分だけを切り取って、水俣病そして『のさり』に結びつけることは誤りであるかもしれない。しかし、私は敢えて問いたいのだ。現代社会で引き起こされるさまざまな事象を『のさり』であったり『宿命としての危険』としてとらえていいのかと。水俣病受難者の杉本雄・栄子さん夫婦は『のさり』と言ってもよい。社会学者として客観的に現代社会を分析したベックが『宿命としての危険』を述べてもよい。しかし、未来を拓くために学んでいる子どもたちにむけて、私たち教師は簡単に語ってはいけないのではないかと考える。

2. 「いちえふ[iv]」は「のさり」か「宿命としての危険」か

福島第一原子力発電所の事故も『のさり』・『宿命としての危険』と考えるべきなのか…考えてもよいものなのか…。私は「否」と考える。「否」と答えなければならないと考える。なぜなら、東京電力は、2008 年に大きな地震に際して福島第一原子力発電所に最大 10.2 メートルの津波が来て、遡上高（押し寄せる水の高さ）が 15.7 メートルになる可能性があることを社内で試算[v]していたというのだ。この試算を踏まえて対策を講じていれば原子炉が炉心溶融するという最悪の事態を回避できた可能性があったのだ。それにもかかわらず、なぜ、対策を講じようとしなかったのか。誰が試算を無視し対策をストップさせたのか。私は、このような一つ一つの責任の所在を明らかにすることこそが大切であると考える。

つまり、「いちえふ」は防ぎ得た事故といえるのだ。事故防止・安全管理を怠ったのだ。なぜ怠ったのか、今後このような事故が起こらないようにするには、どうすべきかを考えることが、未来をひらく子どもたちの学びには必要なことと考える。

3. 水俣とフクシマとをつなぐ授業

2014 年秋、福島大学で「もやい直し～つながろう！水俣と福島～」という公開講演会が開催された。その開催趣旨には「大規模な環境汚染を引き起こした原発事故によって、産業への打撃、コミュニティの分断、避難生活の長期化など深刻な問題が生じています。福島県民をはじめとする被災 3 県は、震災後の 4 年間、復興に向けて着実に進んできましたが、いまだに解決しない問題の多さや、いままで直面したことのない状況に戸惑いや、心の中で不安を感じている人々が少なからずいるのも事実です。今から 58 年前に熊本県水俣市を中心に公害事件が起こりました。そのとき人々は、どのように水俣病と向き合い、どのように乗り越えてきたのか。いまだに裁判や被害が続く水俣病事件に向き合う人々の姿勢に私たちが学ぶべきものや生かせることがあるのではないでしょうか。」とあった。

私の中で水俣とフクシマとが結ばれた瞬間であった。そうだ、水俣とフクシマとを別々にとらえるのではなく、つなげる授業を創造するのが私に与えられた使命ではないのかと考えた。私は ESD（持続可能な開発のための教育）に強い関心を抱いている。ESD とは持続可能な社会を創造していくことをめざす学びであり、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育である。そして、ものごとの本質や根っこにある問い（Essential Question）への答えさがしの『旅』を続ける学びでもある。この ESD の視点に立って考えたとき、水俣とフクシマの本質・根っこにある問い（Essential Question）とは、「なぜ、人間は公害などの環境汚染や自然破壊を繰り返すのだろうか…」ではないかと考える。

今一度、ベックが語った「危険を確定するということは、**倫理**が、哲学や文化や政治とともにー近代化の中心であるー経済や自然科学や技術の分野で再び注目されるという事態を意味する。…危険に当たるかどうかという定義において合理性という概念が用いられるが、それを科学が独占していた状況は崩壊したのである」[vi]という言葉を、現代社会を生きる私たちは思い出すべきである。

学校現場一つを取り上げても、理数教育の最先端・科学技術系人材育成をめざす SSH（Super Science High school）には多額の支援があるが、科学技術の進展に伴う倫理教育の普及啓発活動に補助金がついたという話は寡聞にして耳にしたことがない。つまり、私たち社会科教師が支援を受けなくとも倫理教育を普及啓発するのか否か、その心意気が今

ほど試されているときはない。

水俣病は 1956 年に正式確認され、1959 年には原因物質が有機水銀であると公表され、当時の新日本窒素肥料水俣工場の廃水疑惑が高まった。それにもかかわらず、なぜ、その後 1968 年まで廃水は垂れ流されたのか。なぜ早急に対策が講じられなかったのか。このことを追究しなければならない。

↑　胎児性水俣病受難者：永本賢二さんと
胎児性水俣病受難者：松永幸一郎さんと　→
於：「ほっとはうす」水俣市

Ⅱ．「もやい直し～つながろう！水俣とフクシマ～」の授業化

１．学習指導案

(1)　日時・対象生徒

日時：2015 年 1 月 14 日（水）　5・6 校時（13:20～15:10　＊途中 10 分休憩）

対象：東京学芸大学附属国際中等教育学校　3 年 3 組（男子 12 名・女子 19 名）

(2)　単元名

これからの日本経済の課題

中学校学習指導要領解説社会編　(2) 私たちの経済　イ　国民の生活と政府の役割[vii]

(3)　単元の学習目標

○公害の防止など環境の保全についての問題、グローバル化する国際社会における日本、地域経済の活性化など、今後の日本経済が直面する課題をとらえる。

○今後の日本経済が抱える課題をどのように解決していけばよいのかについて、意欲的に追究する姿勢をはぐくむ。

(4)　単元の指導計画　5 時間扱い

第 1 時　「もやい直し～つながろう！水俣とフクシマ～」　Ⅰ　…　本時

第 2 時　「もやい直し～つながろう！水俣とフクシマ～」　Ⅱ　…　本時

第 3 時　地域経済とその活性化

第 3 時　グローバル化する経済

第 4 時　新たな日本経済のあり方

(5)　本時の学習目標　＊2 コマ共通

Essential Question

なぜ、人間は公害など環境汚染や自然破壊を繰り返すのだろうか…

①　水俣病受難者の『のさり』の心境に思いを馳せる。

②　『宿命としての危険』を避ける人間の「倫理」感に迫る。

＜次なる問い＞　なぜ、人間は分断を受容し差別をするのだろう…

(6)　本時の学習活動　　＊授業前、BGM として、『マタイ受難曲』を流しておく。

1 時間目

	学習活動	教師の発問 Q と指示・説明◆と 予想される生徒の反応△	留意点
導入 10	四大公害	Q.「四大公害」といったら… △水俣病・新潟水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息 Q.「四大公害」はそれぞれどこで発生したのだろう ＊新潟水俣病を除き、公害の名称は聞き知っていても、場所までは特定できないのではないか…？ Q. あなたが「水俣病」について知っていることは・・・	掛地図を準備
展 開 I 25	水俣病 「湯浴みの図」ユージン・スミス 「苦海浄土」	◆「水俣病」という公害病がどのようなものであったのかを詳しくみてみましょう。 ①東京新聞「筆洗」(2004 年 10 月 17 日)を読み、胎児性水俣病の上村智子について知る。 ②ユージン・スミスの『湯浴みの図』を見せる。 一枚の写真「湯浴みの図」を見て、感じたことは…どのような感想をいだきますか…？ △なんて表現していいのか…　（戸惑いの発言？） ③次に水俣病を紹介している DVD を見てみましょう。（視聴した後）どんな感想をいだいた…？ △なんとなく恐かった。 ④水俣病を綴った石牟礼道子「苦海浄土」の一部抜粋を自分に置き換えて読んでみよう。 文章の最後に「今から先、這うて食おうか。あっはっはは」とあるが、この笑いの意味は…？ △自分を情けなく思う自嘲の笑い…	東京新聞筆洗(2004/10/17) 上村智子さんの湯浴みの図を紹介 DVD「水俣病そ 20 年」[viii]を準備 当事者性をもって読むように指示する。
展 開 II 15	水俣病受難者（漁師）杉本雄の話 水俣の漁師言葉『のさり』	◆このような水俣病に家族全員がなってしまった杉本雄さんを訪ね、昨年秋インタビューしました。 杉本さんは「水俣病も『のさり』だから」と語った。 ＊『のさり』とは水俣地方の漁師言葉で「天からの授かりもの」といった意味で、大漁を喜ぶとき「今日はのさったねえ」などと使うとのこと。 ◆大漁の喜びと水俣病とを同じ『のさり』というコトバで括ることをどう思いますか…？ △信じられない… ◆雄さんの義父：進さんは生前、譫言のように繰り返したという「水俣病も『のさり』だと思え」と。 Q. どうして、水俣病を「のさり（天からの授かりもの)」と考えられるのだろう… ◆ 今後「水俣病」というコトバを聞いたとき、なぜ水俣病受難者が、この『のさり』という心境に辿り着いたのかを思い出してください。そして考えてみてください。『のさり』って何なのだろう…と。	水俣の漁師コトバ『のさり』を体感する。 問いを温めることの有意味性を伝える。

2 時間目

	学習活動	教師の発問 Q と指示・説明◆と 予想される生徒の反応△	留意点
導入 10	「ほっとはうす」の胎児性水俣病受難者の話	◆水俣病受難者の生活支援施設である「ほっとはうす」[ix]を訪ね、胎児性水俣病受難者である永本賢二さん（1959 年生）と松永幸一郎さん（1963 年生）にインタビューした時の様子を再現する。 ・永本さんは、水俣病の原因企業であるチッソにお父さんが働いていたこと。水俣病を理由にいじめられたこと。いつ車椅子生活になるのかと不安を抱えながら生きていること…。 ・松永さんは、水俣病の原因がチッソの廃水（有機水銀）にあることが明らかになった 4 年後の出生であること「もし、あの時チッソが廃水を止めていたら」と悔しい思いを抱いていること。マウンテンバイクに乗ることを趣味にしていたが 2010 年頃から車椅子生活になっていること。今は将棋に打ち込んでいること…。等を追体験する。	私の両親は熊本出身であること。水俣病の原因が有機水銀であると判明する 2 年前の 1957 年に生まれていること。もしも私が熊本県水俣で生まれていたら…と授業者である私自身が当事者性を表明。
展開 I 15		◆1959 年、水俣病の原因がチッソから排出された有機水銀である疑いが濃いという時点で工場廃水が止められていれば、1963 年生の松永幸一郎さんは水俣病受難者にならなかったはずである。 また、1959 年に、チッソ水俣工場と同様の生産を行っていた昭和電工鹿瀬工場に対して操業停止の措置をしていたならば 1965 年に確認された新潟水俣病も防げたはずである。 Q.なぜ 1959 年に熊本大学研究班が水俣湾内の魚を汚染している物質はチッソから排出された有機水銀ではないかと発表されたにもかかわらず、1968 年までアセトアルデヒド製造をやめなかったのだろう…。政府もやめさせなかったのだろう…。 △会社の利益のため…。経済至上主義	水俣病の分岐点・転換点が 1959 年であったことを強調する。「歴史に if はない」というコトバを批判的にとらえる。
展開 II 25		◆四人グループをつくり、話し合ってみましょう。 本日は特別バージョンとして「えんたくん」を使います。十分に話し合ってください。	
	Essential Question 「なぜ、人間は公害など環境汚染や自然破壊を繰り返すのだろうか…」		
		① 人間が公害など環境汚染や自然破壊を繰り返す要因は… △他人事だと考えているから…　企業のエゴ… ② 人間が公害など環境汚染や自然破壊を繰り返さないための対策・方策 △被害者の立場になって考えることが必要… ◆水俣病受難者である永本さんと松永さんは、不自由な体をおして 2014 年 11 月、福島大学での公開講演会に臨まれた。そこで、永本さんが語られた言葉「親が電力会社に勤める子どもたちのことをしっかりと考えていただきたい。」を噛みしめる。	

２．第１回研究協議会での振り返り

(1)『のさり（天からの授かりもの)』の概念について

・個人の自立・個人の内面に迫らなければ理解しえない非常に哲学的な概念ではなかっただろうか。生徒にはいささか難しかったのではないか。

・杉本雄氏に直接インタビューして心を揺さぶられた授業者と、生徒との受け止め方には当然のごとく温度差があった。この温度差を埋めるには時間が足りない。

・(序列をつけたがる人間による）徹底的な差別を受け、現実を受け入れざるを得ない状況に追い込まれ、自らの「救済」を求めて、発想を転換したところに生まれた概念が『のさり』ではないのか。

・在日韓国・朝鮮人にも見られたことだが、徹底的に抑圧された人間が、現在置かれた境遇からの転換を考える際に『のさり』という概念が生まれたのではないか。

・水俣の漁師コトバとしての『のさり』であり、水俣地方一般の方言として扱うことは危険な部分もあるのではないか。

・『のさり』と考えたからこそ乗り越えることができた。そうとも思わないと生きていけない。やっていけない。という感想を述べた生徒がいたが、そういう考え方ともちょっと違うのではないか、とらえかたを間違いはしないかと危惧する。

⇒　私が『のさり』という概念にこだわった一つの理由に、10 月に水俣を視察した後、私は facebook に次の文を上げた。「朝食後、水俣病資料館を訪ねる。その後、相思社水俣病歴史考証館を訪ねる。1950 年代の不知火海の漁船。猫実験に使用された小屋。「怨」の文字のある旗（私が中高生の頃、新聞・テレビでよく見た。当時はもっと大きな旗だと思っていた)。それから環境庁デモ+チッソ本社前座り込み行動等に使用されたゼッケン。改めて、水俣病と同時代を生きていたのだと感じた。午後は、水俣市の環境マイスターでもある茂道在住の杉本雄さんにインタビューを行なった。水俣病は「のさり」=自分の力ではどうしようもない与えられた試練、乗り越えなければならない「宿命」とも呼べれるような試練であると語られた。チッソとの関係も対抗関係にある限り克服できないと…。親も妻も水俣病で亡くされ、杉本さんご自身 1981 年に水俣病に認定されているのに…。「怨」ではなく「恕」の文字を思い描く、自分を思いやるのと同じように相手を思いやる表現しようのない凄い人に出会った。」と。すると、その日のうちに東京学芸大学の成田喜一郎先生から下記の詩が寄せられた。

『怨と恕との狭間はグラデーション』

成田喜一郎

聴くひとがいて語り、語るひとがいて聴く。
その《あいだ》に　心底に澱をなす「怨」も
いつしか清き水を貯え、「恕」となってゆくのか。
そこまで辿り着くことは　容易なことではなかろうに。

そう、インタビュー　Interview、
まさに、その《あいだ》を観ること。
旅は、光も蔭をも観ること。

私はこの「『怨』と『恕』」の狭間で揺れ動く人間のこころに迫ってみたいと考えた。結果的にこれこそが私が最も生徒とともに考えたい問いとなった。しかし、これは授

業者である私の個人的嗜好であり、生徒の立場に立った授業ではなかったと反省し、次のクラスでは『のさり』のところを削除し急遽改訂版を作成し授業することとした。

(2) 1959 年の意義について

・折角 1 コマ目で水俣の学習を積み上げてきたのだから、「なぜ 1959 年にアセトアルデヒド製造をやめなかったのか」を主発問としたほうが良かったのではないか。途中に福島原発事故の問題を挟んだことで、生徒の中に混乱が見られたように思う。

・Essential Question に「なぜ、人間は公害など環境汚染や自然破壊を繰り返すのだろうか」を置くのではなく、「なぜ 1959 年にアセトアルデヒド製造をやめなかったのだろう」とストレートに聞いたほうが良かったのではないか。

⇒　2 コマ目の前半部分、水俣病の学習が一区切りしたところで「なぜ 1959 年にアセトアルデヒド製造をやめなかったのだろう」と問う。その後、最首悟の「水俣病と現代社会を考える――水俣の五〇年」を紹介した後、原発問題へ切り込んでいく。そして、最後にアイリーン・スミスの「水俣と福島に共通する 10 の手口」を確認した後、「今後、水俣病や原発事故を繰り返さないために、私たちは、どのようなことに注意していかなければならないだろう…？と問う。

(3) 「犠牲」のシステム

・より強く「犠牲」の当事者性に気づかせたい。もし自分が水俣病受難者となったら…。もし自分が原発事故により自宅で暮らすことができなくなったら…と問う。

・「犠牲」がより少数者である地方・過疎地域に押し付けられていることを、東京で生活する人間としてどう考えるのか…と問う。

⇒水俣の立場・福島の立場に立って考えられる学ぶ構えのできる（自分たちの学びの中に探していく）生徒を育成しなければならない。

３．修正指導案

1 時間目：展開Ⅱの修正指導案

展開Ⅱ 15	「ほっとはうす」の胎児性水俣病受難者の話 水俣事件関連略年表	◆水俣病受難者の生活支援施設である「ほっとはうす」[x]を訪ね、胎児性水俣病受難者である永本賢二さん（1959 年生）と松永幸一郎さん（1963 年生）にインタビューした際の声を紹介する。 A.永本さんの辛かった思い出を水俣病資料館の映像資料で振り返る。 B.1959 年にチッソが有機水銀原因説を受け、アセトアルデヒド製造を中止していたならば、1963 年生まれの松永さんは水俣病にならなかったという悔しい思いを共有する。 ◆水俣事件関連略年表を提示し、1959 年に熊本大学研究班が水俣湾内の魚を汚染している物質はチッソから排出された有機水銀ではないかと発表されたにもかかわらず、1968 年までアセトアルデヒド製造をやめなかったことを強調して、次の時間につなげる。	写真と DVD とで身近に感じられるよう工夫する。

2時間目：展開Ⅰ・Ⅱの修正指導案

展開Ⅰ 20	疑問・疑惑 なぜ…　なぜ…	◆1959年、水俣病の原因がチッソから排出された有機水銀である疑いが濃いという時点で工場廃水が止められていれば、1963年生の松永幸一郎さんは水俣病受難者にならなかったはずである。 また、1959年に、チッソ水俣工場と同様の生産を行っていた昭和電工鹿瀬工場に対して操業停止の措置をしていたならば 1965 年に確認された新潟水俣病も防げたはずである。 Q.なぜ 1959 年に熊本大学研究班が水俣湾内の魚を汚染している物質はチッソから排出された有機水銀ではないかと発表されたにもかかわらず、1968年までアセトアルデヒド製造をやめなかったのだろう…。政府もやめさせなかったのだろう…。 △会社の利益追求… ◆1959・60年当時の日本政府の動きを紹介する。 最首悟が「水俣50年－ひろがる『水俣』の思い」で述べている「水俣病は終わらせなければいけなかった」を読む ◆グループをつくり、「えんたくん」に自分の考えを書き込んだ後、話し合いを進めてください。	水俣病の分岐点・転換点が1959 年であったことを強調する。 「歴史にifはない」というコトバを批判的にとらえる。 段ボール製の「えんたくん」を活用
展開Ⅱ 10	もやい直し つながろう 水俣とフクシマ	◆水俣病受難者である永本さんと松永さんが、2014年11月、不自由な体をおして、福島大学での公開講演会に臨まれた。そこで訴えかけたことは… ・経済優先で原発の危険性を見逃していないか ・要援護者（子ども・障がい者・高齢者）の避難は ・昔も今も変わらない経済優先 ・国はどこまで安全を保障できるのか ◆新聞記事「福島第一原発、10メートル超の津波想定 東電が2008年試算」を読み、福島第一原発を襲った津波が『想定外』ではなかったことを確認する。	「水俣から川内原発再稼働反対水俣病受難者らが団体」朝日新聞デジタル（2014/10/02） 「福島第一原発10 メートル超の津波想定」日本経済新聞（2011/08/24）
	Essential Question 「今後、水俣病や原発事故を繰り返さないために、私たちは、どのようなことに」注意をしていかなければならないのだろう…？		
	現代リスク社会にどう向き合うか	◆アイリーン・スミスさんの『水俣と福島に共通する10の手口』を参考にしつつ、自分のこととして考えよう。 ◆グループをつくり、「えんたくん」に自分の考えを書き込んだ後、話し合いを進めてください。	

４．第２回研究協議会での振り返り

(1)1959 年の熊本大学研究班による「魚の汚染物質は水銀ではないか」という発表をどうとらえるか…。とらえさせるか…。

・リスクが低くても未知数であっても…

→因果関係が証明された限り…　と考えるか

→完全に合意形成できなければ…　と考えるかで大きく異なる。

⇒EU は危ないと認知したなら STOP させる環境にあるのだが…

1959 年当時、因果関係を認めないチッソに対して何ができたのか…

(2)1959 年 11 月の池田勇人通産大臣の「有機水銀の出所については軽々に発言してはならない」をどうとらえるか…。どうとらえさせるか…。

・その真意は何か…？　官僚の立場からの発言とだけとらえていいのか…？

→当時の状況は科学的に因果関係が完全に証明されていたわけではない。

多少のリスクはあったとしても…と考えることは不自然ではないかもしれない。

・メディアとの向き合い方＜メディアリテラシー＞を考えさせることが必要

・対抗的メディアの存在確認　情報を疑い相対化する姿勢を育むことが必要。

・誰が何のために、その情報を流しているのかと考えることも必要。

・よく言われることであるが情報の取捨選択、福島の風評被害にも通じるものであるが情報を鵜呑みにしない力が必要。「批判的思考力」の涵養。

・「環境倫理学」につながる学びの必要性。

(3)今後、水俣病や原発事故を繰り返さないために「直観」が必要との生徒発言に関して

・深い知識・経験に基づく直観を磨くことは、とても大切である。

・直観を磨くにあたっては、知識以上に経験の役割が大きいのではないか。

・当事者に共感する感性と自分を顧みる知識が必要なのではないか。

(4)近代科学を問い直す

・生徒の「力」となる真の学力は、どのように形成するのか

・地球が破壊されていく中で、環境汚染をどのようにして喰いとめるのか

・分断されている知識の体系をいかにしてつなげるか

↑「えんたくん」を活用した話し合い活動
「えんたくん」を活用した発表→

【授業後の新聞投稿等】

若い世代

水俣病と震災復興が重なる

中学生　安丸　音織
（東京都　15）

公民の授業で、熊本県水俣市であった水俣病について教わった。知っているふりをしていた自分が恥ずかしかった。この病気の患者さんたちの苦しみは想像以上だった。

水俣病は、有機水銀が海に流れて被害が広がった。病院から保健所に報告され、公式に確認されたのは1956年。それなのに国の公害認定は12年後。なぜ、これほどの時間がかかったのか。

それは「ひとごと」だったからだと私は思う。熊本で苦しんでいる人がいても、東京の人には関係ない。これは間もなく4年になる東日本大震災も、似たような状況だ。政府は、被災地の復興よりも東京五輪の施設建設を優先しているように思えるからだ。

住む場所が違っても、同じ国で大変な目にあっている人がいる。決して「ひとごと」ではないはずだ。無視し続けたら、このような悲劇はなくならない。

朝日新聞　2015/01/26

■「水俣病」について知っていることは…
○熊本県　水銀中毒　チッソ　四大公害
■「湯浴みの図」を見て…
○母と娘の目が合っていない。心が痛い。何も言えない。言ってはいけない。
■どうして水俣病を「のさり（天からの授かりもの）」と考えられるのだろう…
○自然（海）とともに生きてきた漁師は、すべて（獲れる魚の量・生死など）が「自然の意思」によって起きると考え、水俣病もそのうちの一つと考えたのではないか。
■なぜ…　1968年までアセトアルデヒド製造をやめなかったのだろう…
○当時の高度経済成長期のご時世、何よりも企業経済の優先順位が高かったため。みなイケイケだった。豊かな生活を送るためには多少の「犠牲」もしかたないと考えたのではないか。
■公害など環境汚染や自然破壊を繰り返す要因
○優先順位が根本的に間違っている。国の発展、経済優先、会社の利益優先。公害や環境汚染、自然破壊を続ける方が防ぐより楽。
■公害など環境汚染や自然破壊を繰り返さないための方策
○公害などの環境汚染や自然破壊がどれだけの被害、人々への傷を残していくかを教育の現場などで語り継ぐ。安い大量生産よりも環境を重視する社会風土を築く。

利益よりも大切なもの

'15.2.10
毎日
中学生　吉田　優希15（東京都杉並区）

犠牲のない社会を作ることはできるのか。そんな問いが公民の授業で水俣病について学んでいる時に浮かんだ。水俣病の被害は「すさまじい」という一言で言い表せるものではない。被害者たちは周りの者から差別され、物も買えない。そんな状況にあった。しかし、当時は高度成長の時代であったため、その問題はかき消されてしまったという。

日本では沖縄で米軍基地の爆音の、福島では原発事故の被害を受けている人たちがいる。

私は犠牲のない社会を作るには、まず利益を優先せず、それよりも大事なものを大切にすることだと考える。たとえば原発に関しては、私たちが得られるエネルギーは減るかもしれないが他のエネルギーに変えることによって、国民の安全は守られる。

言葉を換えると、犠牲のない社会ができるできないではなく、私たちはそれに向けて働きかけなければならない。利益よりも大切なものは何か。それをこれから探していきたい。

毎日新聞　2015/02/10

【参考資料】ワークシート　（＊紙面の都合上、B 版を A 版へ・生徒記入欄縮小）

社会科通信　No.1

『Think Globally, Act Locally』

－知らないのは罪　知ったかぶりはもっと罪　嘘を言うのは　もっともっと罪－

■ **水俣病**　Q. あなたが「水俣病」について知っていることは…？

1. **写真「湯浴みの図」　ユージン・スミス**

水俣病の惨禍を伝えて世界中の人々の心を打った一枚の写真がある。米写真家ユージン・スミスさんが 1971 年に撮影した当時 15 歳の胎児性水俣病患者、上村智子さんの湯浴みの図▼湯船の中で、痩せて硬直したままじっと中空を見据える少女を、いとおしむように抱きかかえる母親。モノクロの柔らかな光が母子を包み込んでいる。両親から「宝子（たからご）」と呼ばれていた智子さんは 77 年に亡くなる。▼作品は 75 年に写真集『MINAMATA』として発表され、大きな反響を巻き起こす。米誌「ライフ」などの写真誌や国内外の写真集、ポスター、図録で広く紹介され、学校の教科書にも載った▼反公害運動の高まりの中で智子さんの写真は広く世に出回った。しかし残された家族にとって写真は生き身の智子さんそのものでもある。長引く裁判。ビラに使われ、雨に打たれ、踏みつけられて▼「もうここらで智子を休ませてあげられないか」。上村さん夫妻の思いを知ったスミスさんの妻アイリーンさんが 98 年、写真を夫妻に返すことを承諾。以後新たな出版や展示には使われないことになった。

Q. 一枚の写真「湯浴みの図」を見て、あなたが感じたことは…？

Q. DVD『水俣病　その 20 年』を見て、あなたが感じたことは…？

2. **『苦海浄土（くがいじょうど）』　石牟礼道子　講談社文庫**

うちは情けなか。箸も握れん、茶碗もかかえられん、口もがくがく震えのくる。付添いさんが食べさしてくらすが、そりゃ大ごとばい。三度三度のことに、せっかく口に入れてもろうても飯粒は飛び出す、汁はこぼす。気の毒で気の毒で、どうせ味もわからんものを、お米さまをこぼして、もったいのうてならん。三度は一度にしてもよかばい。遊んどって食わしてもろうとじゃもね。いやあ、おかしかなあ、おもえばおかしゅうしてたまらん。うちゃこの前えらい発明ばして。あんた、人間も這うて食わるっとばい。四つん這いで。あのな、うちゃこの前、おつゆば一人で吸うてみた。うちがあんまりこぼすもんじゃけん、付添いさんのあきらめて出ていかしてから、ひょくと思いついて、それからきょろきょろみまわして、やっぱり恥ずかしもんだけん。それからこうして手ばついて、尻ばほっ立てて、這うて。ロば茶碗にもっていった。手ば使わんで口を持っていって吸えば、ちっとは食べられたばい。おかしゅうもあり、うれしゅうもあり、あさましかなあ。扉閉めてもろうて今から先、這うて食おうか。あっはっはは。

Q. 最後に「今から先、這うて食おうか。あっはっはは」とあるが、この笑いの意味は？

3. 杉本雄さんが受けた受難と現在の心境

■ 家族全員が水俣病になった。
■ 最初は奇病として扱われ、いわれのないいじめを受けた。
たとえば、漁師にとって最も大切な網を切られた。
⇒いじめた人も本当は良くないことをしていると思っていたはずなんです。そこまで追い　込まれた人間の心理が一番かわいそうなんです。いじめていた人たちも助からないといけないんです。人間はみな平等であり、かけがえのない『いのち』をいただいているのですから…。自分さえよければいいという考えを捨てて、人間がいかに善く生きていくかを　　考えなければいけません。

4.『のさり』　藤崎童士　新日本出版社　　＊雄さんの義父：進さんのコトバ

病気に罹ってきつか　死んでも死にきれんほど辛か　いいか、水俣病は＜のさり＞だと思え　人のいじめは海の時化と思え　こん時化は長かねえ　だけど人は恨むなぞ　時代ば恨め　わらは網元になるとじゃっで人を好きになれ　そして漁師は木と水を大事にせんばんぞ　ばってん、人にしてはならんこつのあっと　それはこげんしたこつぞ　病んで身を絞るほど辛かこつば知っとるからこそ、こげんしたこつはならんとぞ　母ちゃんより早よ死んじゃならんとぞ　だっどん（誰）が悪かか、裁判が白黒つけてちくる　くたばらずにやれ　人をのろうてん、会社の悪口いうてん、なんもならん　10年経ちゃ本当こつはわかる　それまで家族の気持ちがバラバラにならんごつ、人に騙されてん、人を騙さんごつ…

Q. どうして、水俣病を「のさり（天からの授(さず)かりもの)」と考えられるのだろう…

社会科通信　　No.2.

『Think Globally, Act Locally』

1. 水俣事件関連略年表

1908　日本窒素肥料（株）が水俣に工場を建てる。
1932　チッソが水銀の混じった工場排水を流し始める。
1956　水俣病の公式発見　＊伝染病を疑い、患者の家を消毒する。
1957　水俣保健所や熊本大学の実験で、水俣湾でとれた魚や貝を与えると、
ネコが水俣病になることがわかる。
⇒　熊本県が水俣湾内の魚や貝を食べないように呼びかける。　＊古家正暢誕生
1959　熊本大学研究班　魚の汚染物質は水銀ではないかと発表。
チッソが水俣病で亡くなった人や患者に見舞金契約を結ぶ。
1968　チッソがアセトアルデヒドの生産を中止。
厚生省が、水俣病の原因はチッソの工場排水と断定。
1969　チッソの責任をめぐり、水俣病第一次訴訟が始まる。

Turning Point：分岐点/転換点
1959年　熊本大学研究班が水俣湾内の魚を汚染している物質は、新日本窒素肥料水俣工場（チッソ）から排出された有機水銀ではないかと発表。

■ このとき、工場廃水が止められていれば、少なくとも1963年生の松永幸一郎さんは水俣病受難者にならなかったはずである。
■ このとき、チッソ水俣工場と同様の生産を行っていた 昭和電工鹿瀬工場に対して、操業停止等の措置をしていたならば、1965年に確認された新潟（第二）水俣病も防げたはずである。

【疑問・疑惑】　なぜ…　なぜ…　なぜ…

1959 年に熊本大学の研究班が、水俣湾内の魚を汚染している物質は、新日本窒素肥料(チッソ)水俣工場から排出された有機水銀ではないかと発表したにもかかわらず、1968 年までアセトアルデヒドの製造を中止しなかったのだろう…。

また、政府もなぜ操業停止等の命令を出さなかったのだろう…。

2. もやい直し　ーつながろう！　水俣とフクシマー

【水俣から川内原発再稼働反対　水俣病受難者らが団体】

九州電力川内原発から最短で 40 キロに位置する水俣市の水俣病受難者らが、再稼働に反対する団体『原発の再稼働ストップ水俣の会』を新たに立ち上げた。代表の松永幸一郎さんは「経済優先で原発の危険性を見逃すなら、水俣病の教訓を学んでいない」と訴える。

松永さんは 2013 年 2 月、福島第一原発から約 40 キロ離れていながら、放射線量が高いために全村避難が続いている福島県飯舘村を訪問した。原発事故の被害の現状を自分の目で見て確かめようと、仮設住宅などを見て回り、「ここで生まれ住んで、帰りたくても帰れない人を原発が苦しめている。水俣も被害を受けない保証はない」と感じたという。

会は「事故が起これば要援護者と呼ばれる子ども、障害者、高齢者の避難に多くの困難が予想される」として先月、川内原発の再稼働に反対する意見書を採択するよう水俣市議会に陳情で求めたが不採択となった。同じ受難者の永本さんは「水俣病の公害があったのに、昔も今も変わらず経済優先。理解してもらえず残念だ」と話した。松永さんは「避難計画も不十分で、国はどこまで安全を保障できるのか。一人ひとりの安全を確保しないで原発を動かすことは危険だ」と訴えている。　朝日新聞デジタル

Essential Question

「なぜ、人間は公害など環境汚染や自然破壊を繰り返すのだろうか…」

① 公害など環境汚染や自然破壊を繰り返す要因

② 公害など環境汚染や自然破壊を繰り返さないための対策

① 公害など環境汚染や自然破壊を繰り返す要因

② 公害など環境汚染や自然破壊を繰り返さないための対策

永本賢二さんが福島大学で語ったコトバ

2013 年 2 月、飯舘村の壊れつつある民家。声がしない。放射性物質という目に見えないもので地域が破壊された光景が、住民が知らないうちに公害に侵されていた水俣と重なった。被災地では地域が分断され、差別も生まれていた。かつての水俣と同じで見るのがつらかった。

⇒「親が電力会社に勤める子どもたちのことをしっかりと考えていただきたい。」

★研究協議会を経て改定した資料

○No.1 の「3. 杉本雄さんが受けた受難と現在の心境」と「4.『**のさり**』」を削除
　新たに「3. 胎児性水俣病の受難者」と「4. 水俣事件関連略年表」を挿入

○No.2 に「1. 水俣病は終わらせなければいけなかった」と「2.もやい直しーつながろう！水俣とフクシマ」に「福島第一原発　10 メートル超の津波想定」と「水俣と福島に共通する 10 の手口」を挿入

＜ワークシート No.1 の改定資料　新たに挿入＞

3. **胎児性水俣病の受難者**

A. 永本賢二さん：1959 年 9 月 1 日生。1970 年、胎児性水俣病と認定される。

僕はチッソの専用港がある梅戸で生まれました。1959 年当時、祖母と両親、姉二人の6 人家族で暮らしていました。家が海の近くで、船がありましたので、お父さんはチッソ工場に働きながら漁業もして、家族でよく魚を食べていました。僕が生まれたとき、長男ということで家族はみんな喜んだそうです。しかし、小さい頃僕は泣いてばかりいたそうで、首がすわるのも遅く、歩くことができるようになったのも4 歳になってからでした。心配した母はよく僕をおぶって　病院に行きましたが、母の背中で母の髪をひっぱりながら「病院は嫌だ」と泣いたのを憶えています。そして幼い頃に胎児性水俣病と診断されたそうです。僕は、水俣病であること、また、体が不自由なことでいろいろな差別を受け、つらい思いをしてきました。原因企業であるチッソ工場のことをうらんだこともありますが、僕自身のお父さんもチッソ工場に勤めていたし、今も水俣にはチッソ工場で働く親を持つ子どもたちがたくさんいます。僕はそんな子どもたちが胸をはれるよう、チッソ工場はこれから二度と公害を起こさないようにして頑張ってほしい。

水俣ではチッソに働く人やその家族がたくさんいて、水俣病患者に対する目は温かいものではなかった。また、水俣病認定患者には原因企業であるチッソから補償金が支払われたので、その補償金にまつわる差別もあった。「野球ボールや鉛筆を買っても、補償金もらっているからいいね」と言われて…。「お父さんの給料で買ったんだから、補償金じゃないよ。」と言い返しました。こういうコトバを言われるのがイヤだった。また、「水俣病患者はバカな真似をしていれば、お金がもらえていいね。」と言われました。大人がそういうことを言っていたから、子どもが真似して言ったんでしょう。そう言われて僕は泣きました。

B. 松永幸一郎さん：1963 年 6 月 29 日生。20 歳の時に胎児性水俣病と認定される。

1963年未熟児として生まれる。5 歳になっても歩けず、松橋療護園に入園、小学校1 年生になり歩けるようになる。13 年間松橋養護学校に通学。障がいがあっても地元の学校に行きたかったと思っている。高校卒業後就職をしたが、差別と偏見を受け職を転々とした。20 歳の時、水俣病の認定を受けた。チッソは1959 年には有機水銀が原因とわかっていたのにそのまま工場排水を流し続けた。あの時、止めていてくれたならば1963 年生まれの自分は健康に生まれ、また、違った人生があったのではないかと思い、チッソを憎んだりした。年齢とともに身体能力が衰え、何年か前まではマウンテンバイクで通所することもできたが、今では車椅子での生活を余議なくされている。

＜ワークシート No.2 の改定資料　新たに挿入＞

1. **水俣病は終わらせなければいけなかった**

1959 年 11 月 12 日は歴史的な日になりました。厚生省の食品衛生調査会の水俣食中毒特別部会が日比谷で開かれ、水俣病の原因は湾周辺の魚介類に取り込まれたある種の有機水銀化合物という中間答申をする。そしてこの部会は即日解散。……翌 11 月 13 日、閣議で池田勇人通産大臣が有機水銀の出所については軽々に発言してはならない、と釘を刺す。……1960 年 1 月サイクレーター〔排水浄化装置〕の完成、社長はそのろ過水（実は水道水）をコップで飲む。もう大丈夫とメディアは書き立てた。幕引きの最後の儀式です。通産省と新日窒（現チッソ）はそのサイクレーターがどんな機能しか果たせないかを、そもそも有機水銀排水路がつながれていないことを知っていた。明白な犯罪です。……当時の技術水準は色と沈殿を取るだけで、有機水銀や重金属を取る技術はまったくなく、〔サイクレーターを受注した荏原インフィルコは〕当然そのような発注は受けていないと言う。それほどまでして水俣病は終わらせなければいけなかった

最首悟・丹波博紀 編　『水俣五〇年――ひろがる「水俣」の思い』　作品社　2007

2. もやい直し　ーつながろう！　水俣とフクシマー

②福島第一原発、10 メートル超の津波想定

【福島第一原発、10 メートル超の津波想定　東電が 2008 年試算】

東京電力は 24 日、福島第 1 原子力発電所に最大 10.2m の津波が来て、押し寄せる水の高さ（遡上高）が 15.7m になる可能性があることを 2008 年に社内で試算していたことを明らかにした。東日本大震災後、東電は福島第一原発を襲った津波の大きさを「想定外だった」と説明してきた。試算を踏まえて対策していれば原子炉が炉心溶融するという最悪の事態を回避できた可能性があった。東電は試算結果の存在を震災後 5 カ月半も公表してこなかった。事故調査・検証委員会も経緯を聴取しており、今後、事故を招いた重大な原因として争点となりそうだ。　2011/08/24 日本経済新聞

③水俣と福島に共通する 10 の手口

【水俣と福島に共通する 10 の手口】　アイリーン・美緒子・スミス

1. 誰も責任を取らない／縦割り組織を利用する
2. 被害者や世論を混乱させ、「賛否両論」に持ち込む
3. 被害者同士を対立させる
4. データを取らない／証拠を残さない
5. ひたすら時間稼ぎをする
6. 被害を過小評価するような調査をする
7. 被害者を疲弊させ、あきらめさせる
8. 認定制度を作り、被害者数を絞り込む
9. 海外に情報を発信しない
10. 御用学者を呼び、国際会議を開く

【問】今後、水俣病や原発事故を繰り返さないために、私たちは、どのようなことに注意をしていかなければならないだろう…？

引用以外の参考文献 等

○東京新聞　筆洗　(2004/10/17)
○ユージン・スミス　写真集『水俣　MINAMATA』 三一書房　1991
○桑原史成　『水俣事件』　藤原書店　2013
○石牟礼道子　『苦海浄土』　講談社文庫　2004
○朝日新聞デジタル　2014/10/02
○日本経済新聞　2011/08/24
○原田正純　『水俣が映す世界』　日本評論社　1989
○三枝三七子　『よかたい先生』　学研　2013
○最首悟・丹波博紀編　『水俣五〇年ーひろがる「水俣」の思い』　作品社　2007
★えんたくん　http://段ボール.net/products/detail.php?product_id=39

引用・その他

i　V・E・フランクル『それでも人生にイエスと言う』　春秋社　1993
ii　藤崎童士『のさり』　新日本出版社　2013
iii　ウルリヒ・ベック『危険社会』　法政大学出版局　1998
iv　竜田一人『いちえふ　福島第一原子力発電所労動記(1)』　講談社　2014
v　「福島第一原発 10 メートル超の津波想定 東電が 2008 年試算」日本経済新聞 2011/08/24
vi　ウルリヒ・ベック『危険社会』　法政大学出版局　1998
vii　文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』　日本文教出版　2008
viii　土本典昭『公害の原点　水俣から学ぶ　水俣病　その 20 年』　シグロ　2006
ix　ほっとはうす：1998 年、水俣市浜町に胎児性・小児性水俣病患者がスタートさせた障がいを持つ人を中心にした働き・集い・交流する場。
正式名称は社会福祉法人　　さかえの杜　ほっとはうす　施設長：加藤タケ子